

「生活単元学習」（３学年）授業略案

単元・題材名	社会人としての過ごし方①	生徒	３学年１８名
		場所	視聴覚室
日時	平成２８年７月１１日（月）３，４校時	指導者	ＭＴ：森山 紫帆 ＳＴ：海田 健、住谷 亮、 泉谷 好子、石川 誠、 鈴木 貴史
単元の全体目標	・社会人として生活する上での必要な知識を学び、将来に生かすことができる。 ・適切な情報モラルや危険回避を身につけ、情報社会の中でも柔軟に生きる力を身に付ける。		
本時の目標	・ネットトラブルで起こる危険性や危機回避の方法を学び、将来に生かすことができる。 ・スマートフォン依存症について基本的な知識を身につける。		

通過時間	学習活動	生徒の活動	教師の活動	教材・教具
導入 １０分	あいさつ 前時の復習 本時のめあてと課題	○挨拶をする。 ○前時のＰＰの一部を見て振り返りを行う。 ・架空請求 ・迷惑メール ・友人との電話やメールでのコミュニケーション ○本時のめあてと課題を理解する。 ・スマートフォン依存症 ・学習のまとめ	○挨拶をする。 ○前時のＰＰの一部を見せ、振り返りを行う。 ○本時のめあてと課題をＰＰで提示する。 <協同学習の要素や配慮事項> ・学習の進め方を順序立て、ＰＰに視覚的に提示する。（配慮⑮）	ＰＰ
展開 ２０分	スマートフォン依存症	○スマートフォン依存症についてＰＰを見ながらプリントの空欄に記入する。	○スマートフォン依存症についてＰＰを使い説明し、プリントの空欄に記入するよう指示する。 <協同学習の要素や配慮事項> ・ＰＰに表示される重要事項の文字の色を使い分け、視覚的に分かりやすく提示する。（配慮⑮）	ＰＰ プリント
協同学習 ３５分	これまでの学習のまとめ 事例１，２について話し合い	○グループに分かれ、スマートフォンを使用していく中で起こったトラブルの事例に関して解決策や予防法を話し合う。 ○事例１についてグループで話し合う。 ・「どうして・どうする気をつける」	○グループに分かれ、スマートフォンを使用していく中で起こったトラブルの事例に関して解決策や予防法を話し合うことを伝える。 ・ＰＰでグループ発表をする。 ○事例１について「どうして（どうしてこうなってしまったのか）・どうする（どうすれば良いのか）・気をつける（こうならないためには何を気をつけるのか）」を話し合う。（①②③④）	

	ホワイトボードに記入 グループごとに発表 まとめ	○話し合った内容を視聴覚室のホワイトボードに記入する。 ○グループごとに発表を行う。 ・発表の分担は各グループで話し合う。 ・発表を振り返る。	<協同学習の要素や配慮事項> ・これまで学習した内容の知識を発言し合い、課題を解決していく。①② ・各自で役割を決め、最後まで責任をもって取り組ませる。③ ○話し合った内容を視聴覚室のホワイトボードに記入させる。 <協同学習の要素や配慮事項> ・誰がホワイトボードに記入するのか相談し、役割を与えられたら最後まで責任をもってやり遂げる。②③ ・発表の際に聞き手や発表する側にも分かりやすくするためにホワイトボードを使用する。（配慮⑮） ○グループ毎に発表を行う。 <協同学習の要素や配慮事項> ・発表の分担を話し合い、自分が与えられた役割は最後まで責任をもってやり遂げる。（②③） ・発表中は聞く姿勢を意識させる。（④） ○発表終了後、グループの発表を振り返って、事例ごとに共通した答えがあればマーカーで線を引き、トラブルを避けるために重要なことであることを説明する。	ホワイトボード（視聴覚室）マーカー
応用発展 15分	自分がスマートフォン持ったらやりたいこと 自分がスマートフォン持ったら気をつけていきたいこと	○自分が今後スマートフォンを持ったらやりたいこと（もう持っている生徒はこれからやりたいこと）をプリントに記入する。 ○自分がスマートフォンを持ったら気をつけていきたいことをプリントに記入する。 ○両項目の記入した内容を発表する。	○自分が今後スマートフォンを持ったらやってみたいこと（もう持っている生徒はこれからやりたいこと）をプリントに記入するよう指示する。 ○自分がスマートフォンを持ったら気を付けていきたいことをプリントに記入するよう指示する。 ○両項目の記入した内容を数名に発表するよう指示する。 <協同学習の要素や配慮事項> ・発表中は聞く姿勢を意識させる。（④）	プリント
整理 10分	まとめ 振り返り	○まとめを聞く。 ○次時のめあてや課題を知る。	○教師によるまとめを行う。 <協同学習の要素や配慮事項> ・実際にグループで事例について話し合い、これまで学習してきた内容を生かすことができたことを伝え、達成感を感じられるようにする。（配慮④） ○次時のめあてや課題を伝える。	

授業参観者アンケート

授業者：森山 紫帆

協同学習（各要素）についての評価

①互恵的な相互依存関係

- ・①、②については、個人で意見をワークシートに記入することができていても、グループとしてそれを上手に共有したり、自分たちなりに話し合うということに難しさがあるのが見られました。全員に事例のプリントが配布されていたので、自分のものを記入して終わるという生徒がいました。グループに1枚のプリントを配布するなどにより、全員で1つのことに取り組む環境やグループの中での役割分担を分かりやすくしても良いのではと思いました。

②対面的なやりとり

- ・ネットトラブルや、スマートフォンの事例についてグループで話し合ったり、発表する役割を決めたりすることで「②対面的なやりとり」の要素が生かされていました。
- ・「②対面的なやりとり」についてグループで話し合う場面では、話し合いをしているグループと、話し合いをせずに記入用紙の各項目へ個人で記入しているグループが見られました。BグループとCグループはグループ全員で話し合いを行い、話し合いで共通理解に立って記入用紙お互いに確認しながら記入していました。Aグループはグループ全員が全く話し合いをしている場面が見られず、事例が印刷されたプリントを各自が読みながら、それぞれが勝手に記入用紙に書き込むのに専念していました。それに対して、Dグループは全員で話し合いは見られなかったですが、2人で確認をしながら書き込んで、場面によっては個人で書き込むなどの様子が見られました。「グループで話し合う」、「意見を交換する」などの指示を理解しているのかと疑問に感じました。

③個人としての責任

- ・全員に事例のプリントが配布されていたので、自分のものを記入して終わるという生徒がいました。グループに、1枚のプリントを配布するなどにより、全員で1つのことに取り組む環境やグループの中での役割分担を分かりやすくしても良いのではと思いました。
- ・「③個人の責任」については、事前学習の内容が生徒に定着していたことにより、個人の意見を記入することができていたことが良かったと思いました。
- ・グループワークの際に、同じ人が何度も発表したり、ホワイトボードに記入していることがありました。そういったこともグループで話し合っただけの結果であることや、自分たちで決めることに重点を置いていたのは理解できましたが、より多くの生徒が活躍する場面を設定するために、1回目2回目の発表者を変えるなど、ある程度教員側から条件の提示があっても良いのではと思いました。
- ・同じ人が発表しているグループがあったので、できるだけ多くの人に役割を与えることができれば良いと思いました。
- ・③については、事前学習の内容が生徒に定着していたことにより、個人の意見を記入することができていて良かったと思いました。

④協同学習スキル

- ・学習指導案に「協同学習の要素や配慮事項」が明記されていて、どのようなことに留意して授業を展開

しようとしているのかが分かりやすく、良かったです。ただ、「発表中は聞く姿勢を意識させる。」という配慮事項の記載では、具体的には分かりません。「聞く姿勢」を具体的に分かるように記載する必要があります。

- ・グループ代表が板書した文を発表者が読み上げる際に、読めない漢字がありました。しかし、周囲の生徒が自然な形で読み方を助言しており、「学びの共同体」の協力し合うという基本的な関係ができてきていました。また、発表者が自席に戻った際には、グループの意見を板書した生徒が発表者に配慮が足りなかったことを謝っており、相手を思いやる姿勢が育っていました。

⑤チームの振り返り

協同学習全体を通して

- ・印刷された事例を提示すると、どうしても生徒が個人で読んで理解して自分勝手に進めてしまいがちになるのではないのでしょうか。また、話し合いの結果を記入する用紙をすでに渡してしまうと、話し合いをしたくないと考える生徒にとっては、自分のペースで進めてしまって早く終わらせたいとの気持ちが出てしまいます。プレゼンテーション（パワーポイント）で事例を示すのはいかがでしょうか。プレゼンテーションを利用しながら事例の文章を織り交ぜながらストーリーを展開させ、画面を移り変わらせる表示の仕方を利用することで、プリントのように個人で理解してしまうことを防ぎます。その上で、話し合う項目を一つずつ提示して、そのときにグループ全員による話し合いをもたせるとどうでしょうか。話し合いの場面ごとに記入する用紙をグループ1枚だけ配布し、グループ員には話し合いの材料を用意できるメモ程度の印刷物を渡すなど、個人レベルで一気に全部完了できないように防御線を張っておくのも効果的ではないのでしょうか。プレゼンテーションの画面は繰り返し流すことにより、話し合いが終わっても確認するために画面から目を離すことはできないと感じさせることができれば、各グループ員の勝手気ままな振る舞いをさせないことにつながるのではないのでしょうか。

授業を通しての感想（良かったところ・改善点など）

- ・実際に携帯電話を使い、生徒の興味・関心を引き出していたと思います。
- ・携帯電話の使い方や危険性の教え方が分かりやすかったです。
- ・本時までの事前学習によって、生徒達に知識が定着している様子が、発言やワークシート記入から感じられました。
- ・先生に実際に届いたメールを題材としていたのは、イメージがしやすく良かったと思います。
- ・事例検討の題材も生徒にとって想像のつく実際にあり得るかもしれない内容が選ばれていたのが良かったと思います。
- ・授業案では導入10分、展開20分、協同学習35分となっていましたが、導入20分、展開20分で3時間目が修了していました。振り返りを細かく行っていたことはとても良いと思いました、少し長い印象を受けました。
- ・展開の中で「話を聞く」→「チェックリストに記入」→「穴埋め記入」とメリハリのある活動展開だったので、集中力が持続するような流れでした。
- ・全体を通して、一部の生徒とのやり取りしかないように感じました。座席やグループ分け、MTの立ち位置の工夫があるともっと良いと思います。
- ・STの動きが少なすぎる印象がありました。MTが授業を行い、STが後ろで立っているだけでなく、

もっとMTのサポート、生徒の支援をする必要があると思いました。

- ・発問1つの考える時間に5分は少し長いように感じました。内容に応じて変更すると良いと思います。
- ・生徒に対しての言葉がけが良かったです。授業の中で、生徒が興味をもつようなネット関係の話題を出したり、実際に届いたメールやラインを紹介したりすることで、より身近なものに感じられ意識付けにつながり良かったと思います。
- ・個人へのプリント記入の他に、グループ単位にもプリントがあれば良かったと思います。
- ・指導案通りに、時間の配分ができれば良かったと思います。
- ・実際の携帯電話の悪い事例にリアル感があり良かったです。
- ・ICT活用ができていたと思います。生徒にもICTに触れる機会が増えれば違う形の授業ができると思います。

【全員授業研究 振り返りレポート】

- ① 協同学習の要素を取り入れた授業についての感想。
- ② 授業全般を通して、良かったところ、改善すべきところ。

単元・題材名	生活単元学習「社会人としての過ごし方1」	生徒	3 学年生徒 18 名
		場所	視聴覚教室
日時	平成 28 年 7 月 11 日 (月) 3, 4 校時	授業者	森山 紫帆
「社会人としての過ごし方1」として、スマートフォンを使用した情報モラルの授業を10時間にわたり行った。10時間目の授業でグループに分かれ、スマートフォンを使用している際のトラブルの事例2件についてこれまでの授業の復習として話し合い発表するという内容で授業展開をした。 発表する際にグループ代表が板書した文を発表者読み上げる際に読めない漢字があり、周囲の生徒が自然な形で助言をして、その後板書した生徒が発表者に配慮が足りなかったことを謝罪した。相手を思いやる姿勢、「学びの共同体」として協力し合うという基本的な関係が日頃の学習の中からできていることが確認することができた。 協同学習の要素①②として1人1枚グループで事例について話し合うためにワークシートを配布したが、個人で書くことができてグループとして話し合うことが難しかった。話し合いの最中にグループ全員で協力し合い話し合うことができる環境づくりや働きかけを行うべきであった。 ③として各自で発表する人やホワイトボードに書く人等、役割分担を決めて話し合うよう伝えた。その二つの役割を誰にするか決めることができたが、2件目の事例で同じ生徒が発表していたため、全員が役割をあたるように場面の設定を行うべきであった。 ④では協同学習スキルをして発表を聞く姿勢を意識させていたが、指導者の働きかけが足りず私語が目立ってしまった。 本単元では、日常生活でスマートフォンを使用した情報モラルについて授業内容を設定したため、いかに生徒たちにとって身近に感じてもらうかを意識して指導を行った。実際に届いた迷惑メールをP Pで見せる、スマートフォン依存症のチェックリストを実際に行い、指導者自身もスマートフォン依存症傾向があるかもしれない、そのため誰にでも起こりうる問題であることを伝えることを意識して指導を行った。 S Tを5名配置していたが、具体的な細かい役割を指定していなかったため、うまく活用させていただくことができなかった。今後授業の活動内容にあった人数を検討し、こちらから役割を具体的にお願いしてT Tを行っていく。			

「生活単元学習」（３学年）指導略案

単元・題材名	１ヵ月後の実習に向け、卒業生からのアドバイス	生 徒	３学年全員
		場 所	視聴覚室
日 時	平成２８年 ７月 １９日（火） ２、３校時	指導者	MT：鈴木 貴史 ST：海田 健、森山 紫帆 住谷 亮、泉谷 好子、 石川 誠
単元の全体目標	・前提実習の意義や目的を理解し、必要な知識や態度を学ぶ。 ・実習を振り返り、課題と成果を明らかにし、今後の学習・生活に目標を持つ。 ・自らの将来を具体的に考え、積極的に学習に取り組む。		
本時の目標	・卒業生話を聞き、前提実習や卒業後の生活に生かすことができる。 ・仲間の意見を聞いて、お互いに認め合い、尊重することができる。		

過程時間	学習活動	生徒の活動	教師の活動	教材・教具
導入 １０分	挨拶 前時の復習 本時のめあてと課題	○家庭科の日直 ○卒業生の事例で考えたこと、出た意見を確認する。 ○本時の説明を行う。	○前回の授業で出た意見を確認する。 ＜協同学習の要素や配慮事項＞ ・座席の隣同士などで前時に出了意見を確認し合う。(②) ○授業の流れを確認する。 ①卒業生を囲んでの相談会 ②それを踏まえてワークシートの記入 ③卒業生との交流（時間を見て）	
展開 ７５分	卒業生の紹介（５分） 相談会【話し合い】（４０分）	○卒業生の自己紹介を聞く。 ○卒業生を囲んで、自己紹介を兼ねながら質問をしていく。 座→家→農の順番 ①クラス ②名前 ③趣味・好きな食べ物 ④質問 ○他の生徒がする質問で自分に特に必要だというものをメモする。 ①誰が質問したのか。 ②どんな質問でどんな返答がきたか。 ○最後に卒業生から一言もらう。 ○代表者からお礼の挨拶をする。	○卒業生２名を紹介する。 ①名前、②就職先、③近況報告 ○卒業生の話したことを補足説明する。 ○卒業生ではあるが、外部の講師であることを確認する。 ○全体進行：鈴木、記録：海田 森山、住谷、石川は各クラスの中に入る。 泉谷は記録もしくは生徒の補助を行う。 ○発表を聞く姿勢や態度を意識させる。(②③) ○各クラスに入っている教師と泉谷は書くことが苦手な生徒の補助を行う。 ＜協同学習の要素や配慮事項＞ ・メモを取る際に、協力し合う。(②③) ・聞く姿勢（うなずきなど）を注意する。(③) ※状況に応じて交流の最後に回す。	ホワイトボード 模造紙 ワークシート①

	休憩 (５分)	○休憩中に長機の準備をする。	○配置をホワイトボードに示し指示を出す。	ワークシート②
	振り返り (１０分)	○振り返りのワークシートを記入する。 ①話を聞いて印象に残ったこと。 ②自分にまだ足りないと感じた部分。	○海田が記録したものを基に記入する。 ○：全体指示：鈴木 机間巡視：海田、森山、住谷、泉谷、石川 ○机間巡視の際は書くことが苦手な生徒の支援を行う。	
	交流 (１５分)	○６名程度のグループを作り、各自発表する。 ○グループで他の人が発表したことで参考になることを書き留める。 ○感想、自分には足りない部分、他の人の意見で参考になったもののどれかを何人かの生徒が発表する。	○シャッフルの仕方についてはその場で指示をする。 ○：全体指示：鈴木 机間巡視：海田、森山、住谷、泉谷、石川 ○発表する姿勢や態度、聞く姿勢や態度を意識させる。(②③) <協同学習の要素や配慮事項> ・発表する姿勢（大きな声など）を意識させる。(③) ・聞く姿勢（うなずきなど）を意識させる。(②③) ・発表者を否定せず尊重する。(②、③) ○発表する姿勢や態度、聞く姿勢や態度を意識させる。(②③)	
整理 ５分	まとめ・ 振り返り	○本時のまとめをする。	○鈴木が本時のまとめと反省を伝える。 <協同学習の要素や配慮事項> ・次時につながるよう、生徒への賞賛の言葉を工夫する。(配慮④)	
	次時の連絡	○次時の内容を知る。	○次時の連絡をする。	
	挨拶	○家庭科の日直		

(凡例)「前時の復習…」～授業の流れの骨子、 「○互いに教え合う…」～協同学習に関わる教師の活動

※ (①) … 互恵的な相互依存関係 、 (②) … 対面的なやり取り 、 (③) … 個人としての責任
(④) … 協同学習スキル (⑤) … チームの振り返り

※ (配慮①～⑪) … 配慮事項については、マニュアルP 8～10参照。

※ (配慮☆) … オリジナルの配慮事項。

授業参観者アンケート

授業者：鈴木 貴史
協同学習（各要素）についての評価
①互恵的な相互依存関係 生徒が質問する以外は、卒業生からの話を聞く時間がほとんどだったので、質問の内容を発展させたり、感想を伝えることや一言コメントを言うなど生徒側の発言がもう少し多くても良いのではと思いました。
②対面的なやりとり - 導入で行われた「②対面的なやりとり」は、生徒対生徒のものではなく生徒対教師のものになっていました。 - 生徒同士の協力場面は少なかったと思います。 - 卒業生の返答をメモを取る際、隣の席同士で教え合う面や、教師が話しているときに手を止めるよう生徒同士で注意する場面が見られました。
③個人としての責任 - 自分が質問することを把握した上で発表することができていました。 - 事前に質問することを考えており、また必ず全員が発言する場が設定されていたことで、発言者が偏ることがなかったのが良かったと思いました。 - 一人ひとりが「名前・趣味・質問」を卒業生に向け発表することで、「③個人としての責任」を果たすことができていたと思います。 「一人一回質問する」ということを全員が理解していて、その責任を果たしていた。質問が終わった後に、他の人が質問したことをメモすることで話を集中して聞いていました。 - それぞれが大事だと思うところを進んでメモしていたところが良かったです。
④協同学習スキル - 卒業生との会話のやり取りのため、普段とは異なる雰囲気の中でコミュニケーションをとるという学びになっていたのが良かったと感じました。特に卒業生からの回答の中にも、コミュニケーションに関する発言が多かったので、学びがつながっていることが感じられました。また、聞く姿勢も生徒同士がお互いにチェックできるような席順になっていたことも参考になりました。 - メモをとることに集中していたため、うなずきなど聞く姿勢にそれほど意識が向いていない生徒がいました。 - 卒業生が入室する前に、卒業生が時間を割いて来てくれていることや、聞く姿勢を確認することで感謝の気持ちを持ち、相手を思う気持ちを育むことができたと思います。 - 生徒が自然と先輩たちの方を向いて話を聞いていたのが良かったです。 - 全員で丸くなる座席だったため、対談という良い雰囲気が感じられ、お互い顔を見合わせて受け答えできており良かったと思います。 - 席順の工夫により、全員の顔が見えるようになっていたのが良かったです。 - 記録の補助や聞く姿勢など、もう少しSTの働きかけがあると良いと思います。また、廊下が騒がしい場合にも、MTではなくSTがすぐ動けると良いと思います。 - 実際には④の協同学習スキルも「自分の知りたいことを聞くことができる。」という要素も活動には組み

込まれていますが、指導案に意識的に取り上げていないため、本当に知りたいことを聞くところまで授業展開できていない場面がありました。

⑤チームの振り返り

協同学習全体を通して

- ・実習を控えた3学年の生徒に対し、卒業生が来てくれて実際の実習のときの話を聞いたりアドバイスをもらったりと、生徒がイメージを持ちやすいとても良い授業だったと思います。卒業生の二人も、すごく前向きなアドバイスをしており、お互いにとって良い機会となったと思います。
- ・学習指導案に「協同学習の要素や配慮事項」が具体的に明記されていて、どのようなことに留意して授業を展開しようとしているのかが分かりやすく、良かったです。
- ・授業の初めの方で、協同学習の要素や配慮事項の『『聞く姿勢』を注意する。』に関わる働きかけとして、姿勢の良い生徒を取り上げて褒めており、その後生徒の聞く姿勢が一定に保たれており、良い働きかけでした。
- ・指導案の様式が、研修部で出されている「協同学習授業マニュアル」の様式に沿っていません。
例 「(凡例)「**前時の復習…**。」～授業の流れの骨子、 「○互いに教え合う…。」～協同学習に関わる教師の活動」
※このように授業流れの骨子を示す部分の表示がありません。協同学習に関わる教師の活動と授業の流れの骨子が混同されて表記されています。
- ・協同学習の授業としては、「①互恵的な相互依存関係」、「②対面的なやりとり」、「③個人としての責任」「④協同学習スキル」の4要素を含むことが必要です。協同学習に慣れてきたら、「⑤チームの振り返り」を入れて5要素を含むようにすることが必要です。今回は、指導案の段階で②と③のみの表記で、①と④がありません。①の「互恵的な相互依存関係」を満たすためには、グループで協力し合う場の設定が必要ですが、活動が個の活動になっている要素が多く、協同学習としての成立は不十分でした。グループの中でリーダーまたは進行役を決めて、各自の目標が達成されたのか、相互に確認するなどの協力し合うようにした方がより活発化するものと思います。
- ・協同学習の4つの要素を必ず盛り込み、様式に沿って指導案が作成され、授業展開されると、生徒の力は一層高まると考えます。
- ・今後はより深まるように御配慮をお願いします。

授業を通しての感想（良かったところ・改善点など）

- ・先輩たちからいただいたアドバイスをまとめて分かりやすい言葉で置きかえていたことで、メモが取りやすいように配慮されていました。
- ・卒業生が実際に経験したことなので、説得力があり参考になる内容でした。（お金のこと・職場で嫌なこと・実習生のときと違うことなど）
- ・時間の問題もあると思いますが、もう少し生徒と卒業生の対話が多くても良かったのではと思いました。
- ・「今日は何の日。」という質問から生徒の聞く姿勢についての指導を行っていました。見本を分かりやすい例示してあり、生徒たちからうなずきが多くありました。
- ・授業の中で、「お前」や「コイツ」という発言が多々見られました。

- ・講師として呼んでいる卒業生であっても「〇〇くん」「〇〇さん」と呼んだほうが良いように感じました。
- ・STが座っていたり、ただいるだけになっていました。
- ・話し方（テンポなど）が明瞭でとても分かりやすかったです。
- ・できている生徒への賞賛（「それ正解。」「姿勢、〇〇いいね。」など）のタイミングが的確であったと思います。
- ・昨年に実際にあったことを踏まえて話してくれていて、実習に対しての心構えや緊張感をもつことができました。
- ・教師の持ち味を生かした生徒の感覚に近い話し方が上手でした。それだけ、生徒に浸透しやすい授業展開だったと思います。
- ・生徒の「職場で大人と話すときの話題が難しい。どうしていますか。」という質問に、卒業生が「簡単な質問から始める。」という説明があった際に、すかさず「例えば。」と話を深めようとする関わり方が良かったです。しかし、教師の「小さなことから」や「ささいなこと」という言葉によるまとめは、生徒には具体的に伝わりにくいまとめ方でした。この場面では、④の協同学習スキルの一つである「自分の知りたいことを聞くことができる。」を意識して指導する必要があります。質問した生徒にどのように話題を選べばよいか考えさせ、その答え方によって、さらに卒業生とのやりとりを深めていくことが、④の協同学習スキルを高める授業になります。その中で、まとめとして「天気、最近のニュース、今日の仕事、昨日の職場での出来事」など具体的にまとめた方が質問した生徒には分かりやすかったと思います。
- ・ある生徒の「総菜売り場の人と話したら、顔がてかてかになるね。食欲なくなるね。」という話に、「そこからどう発展させていくか。」と投げかけたとき、その場で生徒に考えさせる、例を示すなどがあった方が学習が深まります。

【全員授業研究 振り返りレポート】

- ① 協同学習の要素を取り入れた授業についての感想。
- ② 授業全般を通して、良かったところ、改善すべきところ。

単元・題材名	生活単元学習「前提実習」	生徒	3年
		場所	視聴覚室
日時	平成28年7月19日(火)2、3校時	授業者	鈴木 貴史
題材が「卒業生からのアドバイス」ということもあり、授業全般を通し、「③個人としての責任」に関しては、話を聞く態度（うなずきなど）、メモを取る、自分の質問を把握し質問するなど生徒たちが良く取り組んでくれた。 「②対面的なやり取り」に関しては、卒業生に在校生が質問をするという形式だったので、そのやり取りは良かったと思うが、生徒対生徒という面ではメモを取ることに集中し過ぎてしまったりし、もっと工夫が必要だった。 「①互恵的な相互依存関係」、「④協同学習スキル」、「⑤チームの振り返り」の3つに関しては、今回の授業にはほぼ取り入れることができなかった。 ①～⑤の項目に関して、1回の授業でとても盛り込めるのであればそれはそれでいいと思うが、「全てを入れる」ということが非常に難しいと授業を計画して感じた。 授業全体の振り返りとしては、計画段階でやることを多く入れ過ぎ、次時のずれ込んでしまう内容となったことと、最後のまとめがかけ足になってしまった。こちら側の見通しが甘かった。授業を行う中で、「言葉」が荒くアンケートでも指摘を受けた。多くの先生が授業に入っており、上手なTTの活用ができていなかったなど、課題を振り返ることができ、今後の授業に生かしたいと思う。 協同学習の要素を意識した授業を行うことで、生徒一人ひとりの意識を高めていけるのではないかと感じたが、そこだけにとらわれては、生徒たちに何を教えたいのか、何を感じてほしいのかという本質の部分を見失わないようにしなければならないと感じた。			

「生活単元学習」（１学年）指導略案

単元・題材名	【生活単元学習】 交流を深めよう	生 徒	1 学年全員
		場 所	格技場
日 時	平成 2 8 年 7 月 2 0 日（水） 1、2 校時	指導者	MT：工藤 大地 ST：石田 浩子、渡邊 雅都、 成田 直浩、高山 愛望、後藤 倫弘、 小林 和幸、村瀬 はるな
単元の全体目標	・他国の同年代の生徒との交流を通して異文化に触れ、社会性を養う。 ・日本の文化（食生活、遊び、芸能など）を共有し、理解を深める。 ・施設の見学や野外活動を通して、地域の歴史や文化、自然に触れ、理解を深めさせると共に、その魅力を体感させる。 ・仲間と共に活動し、その楽しさを味わわせると共に、集団行動や公衆道徳を学ばせる。		
本時の目標	・係の仲間と協力しながら、ピリカアウトドアの活動を振り返ることができる。		

過程時間	学習活動	生徒の活動	教師の活動	教材・教具
導入 5 分	挨拶 本時の目当てと課題 (5 分)	○係ごとに着席する。 ○農業科 A の日直が挨拶をする。 ○本時の授業の流れを知る。 ○係ごとに集まり、模造紙に活動の内容をまとめる。	○本時のめあてと課題を提示する。 <協同学習の要素や配慮事項> ・係ごとに集まり、模造紙に活動の内容をまとめることができることを伝える。(①) ・プロジェクターを使い、視覚的に分かりやすくする。(配慮⑮)	・スクリーン ・プロジェクター ・P C
展開 9 0 分	どのように模造紙に書けばよいかを知る (5 分) 係ごとに役割分担を決める (5 分) 目標の反省を行う (1 0 分)	○プロジェクターを見て、どのように模造紙にまとめるのかを知る。 ○リーダーを中心に係ごとに役割を決めることを知る。 ○係のリーダーを中心に目標の反省を行う。	○教師が模造紙のまとめかたについて、①～⑥までどんな内容を書くことを説明し、どのように模造紙に貼るのか説明をする。 <模造紙に書く内容> ①係名 ②メンバー ③仕事内容 ④目標 ⑤目標に対する反省 ⑥感想 <協同学習の要素や配慮事項> ・プロジェクターや完成図を使い、視覚的に分かりやすくする。(配慮⑮) ○①～⑥までの役割をリーダーが中心になって決めることを伝える。 <協同学習の要素や配慮事項> ・係ごとでどんな仕事を分担するのか話し合って決める。(②、③、配慮⑫) ○話し合いで出た意見が⑤の意見になることを伝える。 ○教師はホワイトボードに生徒の意見を書く。	・スクリーン ・プロジェクター ・P C ・完成図 ・ホワイトボード

	まとめの作業を行う (50分)	○係で決めた分担ごとに作業を行う。	<協同学習の要素や配慮事項> ・ホワイトボードを使い、どんな意見がでたのか分かりやすくする。(配慮⑫、⑮) ○①～⑥の紙を各係に配布し、作業を行うよう伝える。 ○全体進行：工藤 ○各係の活動に入る先生方 ・バス係：石田 ・しおり係：成田 ・レク係：渡邊、後藤 ・保健：小林 ・食事係：高山、村瀬 <協同学習の要素や配慮事項> ・自分の作業が終了した生徒は作業がまだ終了していない仲間の手伝いをする。(②) ・自分の作業が終了したら、各グループの先生に報告する。(③) ○模造紙を配布し、スクリーンを見ながら正しい位置にのりで①～⑥の紙を貼るよう伝える。 ○貼り終わったら、発表の練習を行うことを伝え、発表する人(話す人、紙を持つ人)を各係のリーダーを中心に決めるよう伝える。 <協同学習の要素や配慮事項> ・間違った位置に紙を貼らないように声を掛け合う。(②、③、配慮⑫) ○発表の際は全員前に出てくるよう伝える。 ○発表する姿勢や態度、聞く側も同様に意識させる。 <協同学習の要素や配慮事項> ・発表する姿勢(声の大きさ)を意識させる。(③) ・聞く姿勢を意識させる。(②③)	・①～⑥の紙 ・マジック ・のり ・模造紙 ・①～⑥の紙 ・スクリーン ・プロジェクト ・P C
整理 5分	振り返り 次時の連絡 挨拶	○本時のまとめをする。 ○次時の内容を知る。 ○農業科Aの日直が挨拶をする。	○取り組みに対しての評価を行う。 <協同学習の要素や配慮事項> ・本単元で伝えたかったことを伝える。(配慮④) ○次時の連絡をする。	

(凡例)「前時の復習…」～授業の流れの骨子、「〇互いに教え合う…」～協同学習に関わる教師の活動

※ (①) … 互恵的な相互依存関係、 (②) … 対面的なやり取り、 (③) … 個人としての責任
(④) … 協同学習スキル (⑤) … チームの振り返り

※ (配慮①～⑪) … 配慮事項については、マニュアルP8～10参照。

※ (配慮☆) … オリジナルの配慮事項。

授業参観者アンケート

授業者：工藤 大地

協同学習（各要素）についての評価

①互恵的な相互依存関係

- ・導入で行った模造紙をグループで完成させるという活動は生徒にとって分かりやすく良かったと思います。
- ・1～6の紙をそれぞれが書いて、それを貼り合わせると壁新聞が出来上がるという教材は、互恵的な相互依存関係を意識しながら取り組める良い内容だったと思います。
- ・ピリカアウトドアの反省を模造紙にまとめる作業を行う際、短冊を事前に切っておき、グループで分担して記入を行ったことで「①互恵的な相互依存関係」の要素が含まれており良かったと思いました。時間の短縮にもつながったと思います。
- ・目標や役割分担など互いに協力して、模造紙を完成させるという設定がなされていたので、良かったと思いました。しかし、役割数に対して人数が多いグループなどがあり、STの力量に委ねられていましたので、もっとケアがあっても良かったと思いました。
- ・すべてのグループが時間内に模造紙を完成させて、発表することができていましたので、良かったと思いました。

②対面的なやりとり

- ・話し合いのとき、発言が苦手な生徒や、何をすべきなのか考えるのが難しい生徒は、ボーッとしていたり、座って聞いているだけという様子が見られました。
- ・展開で行った話し合いではグループによって差はありましたが、自主的な話し合いがもたれていました。
- ・最初からグループ全員で話し合うより、まずはペアで意見を出し合ってからグループで話し合うなど段階を踏んだ方が対面的なやりとりが深まったと思います。
- ・「②対面的なやりとり」に関しては、まだ1年生段階ということもあると思いますが、援助したり支え合う、議論するということまで深めることが難しそうでしたので、STまたはMTの働きかけも重要になるのかと思いました。
- ・話し合いで、一人ずつ意見を言っているグループもあれば、言う人だけ言っているグループもあった。話し合いのやり方を統一して必ず言う状況をつくると、みんなが参加できるようになると思います。
- ・ペンの貸し借りを先生が行うのでは、生徒同士の貸し借りを行っても良かったと思いました。

③個人としての責任

- ・一人ひとりが責任をもって学習に取り組めたと思います。
- ・模造紙が切られていて、分担して作業しやすかったと思います。
- ・1～6の紙を分担して書く際に、各グループの人数が違ったので役割の当たり方に差があった。個人の責任のばらつきを調整する手立てがあると良かったです。
- ・ピリカアウトドアでは、一人ひとりが係の担当があったため、反省をする際も「③個人としての責任」を果たすことにつながり良かったと思います。
- ・生徒一人一人が完成に向けて自分の役割を果たしていたので良かったと思いました。
- ・自分の役割が終わった生徒が活動に参加していない様子が見られましたので、何か手立てがあればなお良かったのかと思いました。

- ・授業時間全てという程活動に参加していない生徒が数名いました。その生徒に対する手立てがなかったことは改善点だと思います。
- ・「③個人の責任」については、何もしていない生徒もいましたので、リーダーを育成するか役割の数を多くするかを行えば、もっと良かったと思いました。

④協同学習スキル

- ・「④協同学習スキル」として4月からの積み重ねで伸びることを実感しました。学年の雰囲気がよく、会話（対話）が多くてとても良いと思いました。
- ・「④協同学習スキル」については1年生にしては良くできていたと思いました。これからこのような場面を多くすればできるようになると思います。
- ・発表の声が小さかった生徒に、先生が大きい声を出すように促していたので良かったと思いました。注意するタイミングを発表が終わってからするのか発表中にするのかは、生徒の実態を把握していないと難しいと思いました。

⑤チームの振り返り

- ・目標に対する反省のできた、できないの判断が難しかったように思いました。観点を指示しても良かったと思います。
- ・目標の反省をするときに、個人でワークシート等に記入→グループで交流にすると、より個人の考えが深まったと思います。
- ・感想については、生徒一人一人が自分の分を書いているグループと一人がすべて書いているグループがありました。時間があれば、最後の方でチームの振り返りすればもっと良かったと思います。
- ・1時間目のまとめの作業のみ参観させていただきました。小さめのホワイトボードを各班ごとに用意し、目標の反省の意見を視覚的に分かりやすくすることにより、生徒たちは振り返りやすいため良い配慮だと思いました。

協同学習全体を通して

- ・自分たちの作業が終了したら終わりではなく、まだ作業が終わっていない仲間を手伝うことは協同学習の要素のひとつとして、仲間と助け合うことを学習させることにつながるのと、生徒たちが終わるまで時間を持て余さないために良いと感じました。
- ・ピリカアウトドアについて模造紙にまとめるという授業でしたが、模造紙を完成させるため柔剣道場という場所設定はとても効果的だったと思います。また、一人ひとりが自分の担当の短冊記入を行い役割を果たしていたり、全てのグループが模造紙を完成させ発表することができたりしたことで、時間配分や項目も的確だったのだと思いました。
- ・話し合い、活動、発表と今までの生単で取り組んできた流れもあり、生徒は積極的に活動に取り組めていたと思います。
- ・学習指導案に「協働学習の要素や配慮事項」が具体的に明記されていて、どのようなことに留意して授業を展開しようとしているのかが分かりやすく、よかったです。
- ・指導案の様式が、研修部で出されている「協同学習授業マニュアル」の様式に沿っていません。

例 「(凡例)「前時の復習…」～授業の流れの骨子、 「○互いに教え合う…」～協同学習に関わる教師の活動」

※このように授業流れの骨子を示す部分の表示がありません。協同学習に関わる教師の活動と授業の流れの骨子が混同されて表記されています。

- ・協同学習の授業としては、「①互惠的な相互依存関係」、「②対面的なやりとり」、「③個人としての責任」

「④協同学習スキル」の4要素を含むことが必要です。協同学習に慣れてきたら、「⑤チームの振り返り」を入れて5要素を含むようにすることが必要です。指導案の段階で④がありません。①の「互恵的な相互依存関係」は、係のグループごとに話し合い、模造紙にまとめるため相互に協力し合う場面の設定がありますが、指導案の表現には「協力し合う」の記載がありません。また、④の「協同学習スキル」で「友だちの発表したことや書いたことに対して、アドバイスをすることができる（助言する）」を意識的に盛り込むと、発表練習の際に、相互に発表の仕方を評価・助言し合うことで生徒の主体的な活動が引き出せるものと思います。実際の授業では、STから声を大きくという指示が為されていました。

- ・協同学習の4つの要素を必ず盛り込み、様式に沿って指導案が作成され、授業展開されると、生徒の力は一層高まると考えます。
- ・今後はより深まるように御配慮をお願いします。

授業を通しての感想（良かったところ・改善点など）

- ・指導者が各テーブルにつき、生徒のサポートを行うことで、概ね課程時間の通り活動を進めることができておりとても良かったと思います。
- ・MTとSTの関係、仕事分担、グループ活動がスムーズに行えていて良かったです。
- ・視覚的教材も分かりやすかったです。
- ・MTとSTの動きが明確になっていたことが良かった。ただ、全体への指示以外は何もしていなかった気が・・・(MTが)
- ・グループの実態差が少し気になりました。（ある程度は仕方ないと思いますが・・・）グループをどのように決めたのかが気になりました。
- ・完成させる模造紙のプロジェクターの図と実物があり、視覚的に分かりやすいと思いました。時計がプロジェクターで見にくかったので、タイマーがあればもっと良かったと思います。
- ・生徒がホワイトボードに書いて意見をまとめているグループがあり、指導案と違っていました。もっと教員同士が連絡を取り合えば良かったと思いました。
- ・生徒の発表力がまだ十分ではないため、きめ細かなコメントや指導が必要です。最初の生徒の発表の前に、具体的に気をつけるポイントを話しておき、最初の生徒の発表後には、発表の仕方のよさと気を付けるポイントを助言しておくといいです。それが冒頭の発表ではなかったため、2番目の発表に生かされず、2番目の生徒の発表の途中でMTが「大きい声をお願いします。」という声がけとなりました。学習の展開のさせ方としては、事前に気をつけるべきポイントを伝えて置くことが重要です。人前で発表させる以上、基本的に事前指導が為されていないと、失敗体験になりやすく、発表途中で注意されたという負の体験として残ります。
- ・「こんだけ」と言って、「これだけ」と言い直していました。教師が話す内容や表現は、事前の教材研究や指導案の検討において、教師の発問や注意に関して、具体的に原稿を書き出して話す内容や表現方法を十分に吟味しておくことが良い授業成立のための前提条件の一つです。
- ・最後のまとめはコメント不足です。各係の発表内容や発表の仕方について、具体的にコメントした方が生徒にとって学びが成立します。ひとまとめに評価していて、各係の活動の的確な評価やまとめになっていません。

【全員授業研究 振り返りレポート】

- ① 協同学習の要素を取り入れた授業についての感想。
- ② 授業全般を通して、良かったところ、改善すべきところ。

単元・題材名	生活単元学習	生徒	1 学年全員
	交流を深めよう	場 所	格技場
日 時	平成 2 8 年 7 月 2 0 日 (水) 1、2 校時	授 業 者	工藤 大地
導入で行った「配慮⑮でプロジェクターを使い視覚的に分かりやすくする」では、どのようにまとめるかを映し出すことで、生徒がイメージしやすいように工夫することができたと思います。また、完成図をホワイトボードに掲示することで、より具体的に活動しやすくしました。 展開では、係事に集まって誰がどこの役割を担当するかを決める前に、ワークシートに書いた内容を反省してから役割を決めることで、生徒の考えをより深めることができた。また、話し合いをするときも、プロジェクターに話し合いのルールを映し出して説明をしてから活動させることで統一した話し合いをすることができた。 模造紙にまとめる作業では、役割分担（③個人としての責任）で決めたとおりの箇所を生徒が文章にまとめた。しかし、時間を十分に確保できず、じっくりと思い出しながら作業できなかった。作業が早く終わる生徒、遅く終わる生徒に分かれるので、早く終わった生徒は、まだ終わっていない生徒を手伝う活動（②対面的なやりとり）を取り入れることで最後まで協力して活動することができた。 発表前の練習では、まとめが終わったグループから練習をするよう指示した。練習のときもただ練習するだけになってしまい工夫がみられなかった。お互いの発表を見て助言し合う活動（②対面的なやりとり）を取り入れることで、発表の仕方に関しても工夫を凝らした活動になったと思う。発表の際もまだ発表力が十分ではないため、教員側から発表をする際に注意すべきことを伝えておくことで、生徒も意識した活動になると感じた。また時間に余裕があれば、各グループの発表に対してのコメントを述べることで、どこが良かったのか、悪かったのかが分かる活動となったと思う。 今回の授業は、グループでの活動を通して協同学習ができるように設定をおこなった。しかし、限られた時間に対して内容が多く、じっくりと振り返って学習を行うことができなかった。限られた時間の中で活動する内容を吟味し、今回の活動をとおして生徒一人一人に良かった点や反省点をしっかり振り返ることができる学習活動を展開していきたい。			